



大口町長
鈴木雅博

本町は、地方分権時代を迎えた当初から、自立と共助のまちづくりを掲げ、まちに関わる色々な方々が主体的に考え取り組む、地方自治の原点に立ったまちづくりを進めてまいりました。

お陰様で本町には、地域自治組織の活動や安全安心のまちづくり、地域包括ケアシステムなど、時代の流れに先んじて行動する、住民の皆様方の想いとマンパワーがあり、今後も着実に歩みが重ねられていくと確信しているところでございます。

少子高齢社会が緩やかに進む中、バランスある人口構成を維持させていくために、町民の皆様に、大口町の魅力を知っていただく取り組みとしてシティブロモーション事業を推進しております。「大口町に住んでいてよかった。」と実感していただけるよう、郷土愛を深め「大口町民としての誇りの熟成」を図ります。また、安心で幸せな健康長寿社会の実現は、行政施策として実施するよりは、各々の方の自覚に基づく自主的な活動の方が、継続性が担保され、効果的ではないかと考え、健康づくり、生きがいづくりなどの拠点となる健康文化センターや学習等共同利用施設の改修に取り組んでまいります。

先人が培ってきた自立可能なこのまちを、将来の世代に引き継いでいくためには、50年後のまちの礎となる、産業振興や生活基盤整備が必要となります。また、道路網の整備は、将来展望を持って地道に継続して取り組めば、より良い暮らしの実現につながる、大きな可能性を秘めた「まちづくり」であります。

私は先人から受け継いだ、この暮らしやすいまちを、子や孫の時代に受け渡してゆきたいと、そう思う一心であります。

そのためには、歴史や経験から学んだ知恵を、時代の変化に合わせてアレンジして、さらに、慣例や経験にとらわれず判断して結果や評価を恐れず行動できる、そんな人財が不可欠だと思います。

今後も、このまちに関わる、より多くの人財が得意な分野で活躍することで幸福感を得て、その活躍が結果として地域に貢献する、そしてさらに、その輪がどんどん波及して連鎖し拡がってゆく、まちの人々が誇りを持てるまち、活力あるまちを目指してまいります。

(平成31年度「施政方針」から抜粋・再編)

